

山形スタディツア－総括発表

高畠町での3泊4日をふまえて

加瀬林武史 菊地円華 吉田ひより
松岡満彩子 安江祐美

目次

1

導入

町の紹介・目的・
4日間の流れ

2

ココイズミヤ

リニューアルオープンに
向けて

3

デュアルスクール①

概要

4

デュアルスクール②

メリット・デメリット

5

デュアルスクール③

問題点・提案



1

導入

町の紹介・目的・4日間の流れ

高畠町

位置: 山形南東部

面積: 約180.3km²

人口: 約2万2000人(2023年時点)

アクセス: 東京駅から約2時間20分

歴史: 江戸時代には街道が通っており、交通の要所として栄えた



スタディツアーの目的

1. ココイズミヤの事業構想と課題の共有

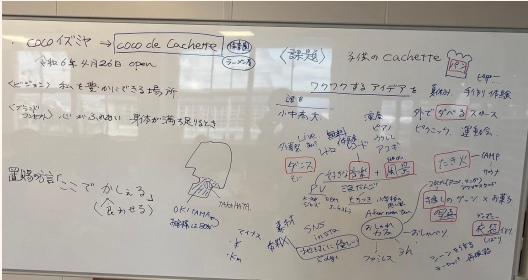
—リニューアルオープンに向けての提案



2. デュアルスクールについて知る

—高畠町で初めて実施された事例をもとに課題や解決策を考える

4日間の流れー 1日目



ココイズミヤの事業アイデア@高畠産業振興センター(旧高畠町立第四中学校)

2日目



英語の授業での様子@二井宿小学校



展示室でそれぞれお気に入りの道具を
持って撮った一枚

2日目

熱中小学校

- ・高畠町でスタート
- ・時沢小学校を再利用した場所
- ・大人が学べる場所
- ・起業家、音楽家、大学教授、料理家など
などが教えにくる
- ・国内、世界合わせて20校



3日目

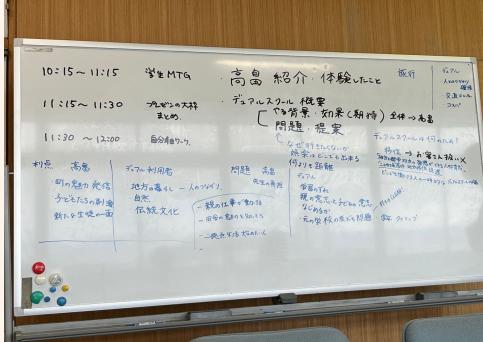


蕎麦打ち体験での様子



和田小学校

4月



贅沢なプレゼン準備



この時期には入手困難な シャインマスカット

0

2

ココイズミヤ
リニューアルにむけて

coco de cachette

高畠町の農産物を主に使ったお菓子を販売する菓子店

4月より移転しさらに大きな土地を使ってリニューアルオープンの予定。

ポリシー:【心がふれあい 身体が満ち足りるひととき】



3つの提案

1

景色×音楽

景色という強み
そしてそれに合わせた
音楽を使っての雰囲気づくり

2

デイリーイベント

特別な体験を用意して
地域の人も観光客も
呼び込めるお店に

3

中高生が遊べる 場所の提供

遊び場に悩む
中高生がワクワクできる
場所を作る



COCO de cachetteの景色



大きな窓が店内にあり、その先には広大な土地が広がる

店自体の大きさは東京ドーム一個分くらいの規模





1. 景色という強み

春夏秋冬

「自然が色々な表情を代わる代わるみせてくれる」
「ついカメラを構えてしまうような景色」

高畠ならではの『ぜいたく』

希少な体験や環境という価値づけが
距離やコストを超える

→観光客が呼び込む

雪景色×カフェの実例



カフェ崖の上

札幌中心部から車で1時間ほど
「雪景色に浮かぶスイーツ」

注目度は高いが実際の数は少ない
+アクセス面ではかなり有利



景色×音楽



景色...魅力的な雰囲気が出る



加えて...
音楽を合わせるとさらなる雰囲気作りが可能に

音楽を季節ごと、時にはリクエストに伴い
日ごとに変えることで魅力的な雰囲気づくり
『心満ち足りる時間』を提供



2. デイリーイベント

特別な一日として、
一つテーマを設定してイベントを開催する

テーマの例

- 服装のテーマ
- テーマに合わせた音楽
- テーマに合わせたメニュー

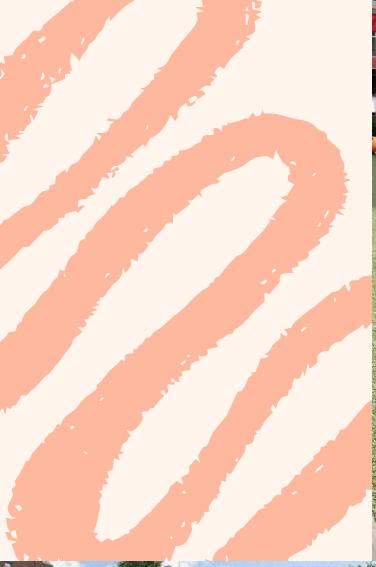


3. 中高生向けの あそび場所の提供

「ラウンドワンが駅前にあつたら ...」
遊べる場所がなくどこで遊んでいいか分からない

広大な土地...外遊びの場所には困らない
無いもの...室内遊びの場や長時間座れる場所





長時間 おしゃべりができる スペース

藤沢市『ペデストリアンデッキ』
高校生が放課後集える場所になっている
岡山市『下石井公園』



3

デュアルスクール①

概要

デュアルスクールとは

意味

都市部に住民票を置いたまま
「区域外」の学校で学ぶこと
(Dual School)

目的

- 地方と都市の交流人口や「関係人口」の増加による地方創生と少子化への対応
- 子どもの豊かな体験機会の提供から、地方と都市双方の視点に立った考え方のできる人材を育成する
- 「二地域居住」や「地方移住」を促進すること

実際は、「子どもの豊かな教育」が主な目的に

<https://dualschool.jp/about>

デュアルスクールの仕組み

現行の学校教育制度

二つの学校に籍を置くことはできない



デュアルスクール
「区域外就学制度」を活用

都市部に住民票を置いたまま
保護者の短期移住に合わせて学
籍を異動→受け入れ学校での就
学期間も出席と認められる。

区域外就学制度とは ...

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成 28年
12月22日)において
「地方への移住に伴う子供の就学手続につ
いて区域外就学制度が活用できることを周
知する」ことが明記された。

あわえ



- 徳島を中心に活動する会社
 - サテライトオフィスの普及事業をメインに行う企業
→二拠点居住の実現のため、区域外就学利用の拡張を行政に申請
- 現在、デュアルスクールを徳島県と協働で推進中

高畠町でのデュアルスクールが始まった経緯

コロナ禍でリモートワークの推進



地方移住への関心の高まり



子どもが障壁となる



デュアルスクール



地方移住への関心の高まり

コロナ禍前と後の比較

9.2%(コロナ禍前)→12.9%(コロナ禍後)

<テレワーク利用者別>

テレワークをしていない→10.5%

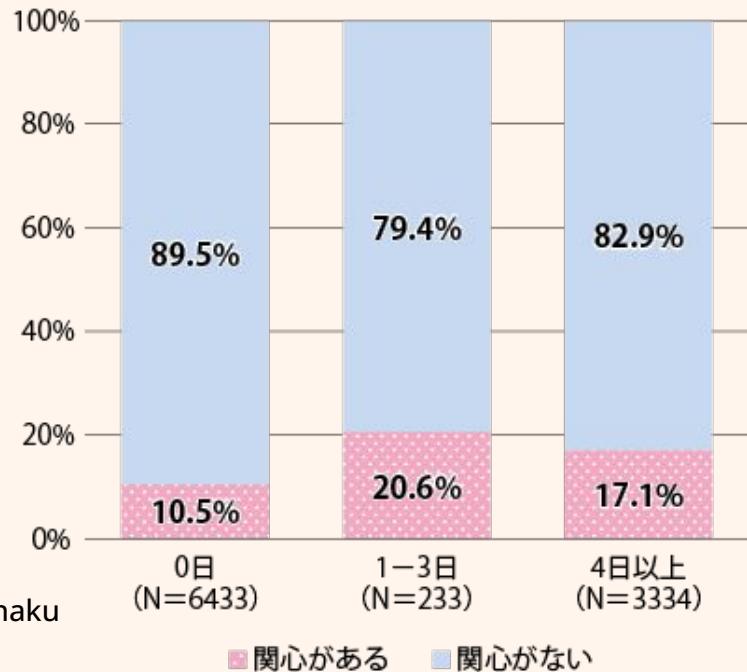
テレワークを週1~3日→20.6%

テレワークを週4日以上→17.1%



テレワーク経験者の方が地方移住に関心あり

<https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/r02/hakusho/r03/html/n1233000.html>
資料)国土交通省「国民意識調査」



デュアルスクールのターゲット

(参加する可能性の高い家庭の特徴)

- 仕事がどこでもできる保護者
 - 田舎の魅力を知っている
 - 二拠点生活に興味がある



4

デュアルスクール②

メリット・デメリット

高畠町のデュアルスクール実施状況



- ・2024年1月に長崎から小学一年生1人を受け入れる(古地一葉さん)
- ・五日間滞在し、高畠町立和田小学校に通う
- ・徳島県以外での初のデュアルスクールの事例
- ・支援員を置かない形を取った

高畠町におけるデュアルスクールのメリット

○受け入れ学校

- ・高畠の子どもたちへの刺激
→少ない人数、変わらないクラス

- ・子どもたちの新たな一面
→初めて会う人にどうやって対応するか

○地域

- ・関係人口の創出による地方活性化
- ・町の宣伝
- ・長い期間滞在することによって宿泊費などの利益
- ・地方移住の具体的なイメージを持ってもらえる
- ・二拠点生活による人の流れの創出

利用者におけるメリット

○児童

- ・新たな環境での学び
- ・その土地の文化に触れる機会
→高畠の伝統的な正月飾りなどを体験
- ・もう一つの居場所としての選択肢
- ・近所づきあいなどの人間関係

○保護者

- ・子供の学校によって移動が制限されない
- ・いつもと違う環境でリフレッシュ

高畠町におけるデメリット(問題点)

- ・受け入れるための手続き(区域外就学制度を使った場合)が煩雑
- ・天候(雪)などの自然現象はコントロールできない
- ・学習進度のズレ
→元の学校とうまく連携が取れず、教科書や学校のスタイルの違いがそのままになってしまった
- ・宿泊施設があまりない
- ・体調面の心配

利用者におけるデメリット

○児童

- ・学習進度のズレ
→短期間、低学年なら影響少ない
- ・親の意思と子供の意思の不一致
- ・クラスの環境になじめるか
- ・五日間のみ
→慣れ始めるころには帰ることに
- ・もともといた学校での居場所

○保護者

- ・元の学校に戻った際に対応が不十分である可能性がある
- ・リモートワークが可能な職種でなければならない
- ・現地での交通手段の確保
- ・教材費や移動費などがかかる

浮かび上がった問題点

そもそも...

[物理的障壁]

- ・距離
- ・地方での交通手段
- ・費用

[子ども視点]

- ・学習進度のズレ
- ・親の意思≠子どもの意思
- ・子どもの人間関係(地元・地方)

学校への負担

[精神的負担]

- ・体調管理や安全面の心配
- ・子どもの期待に応えられるか？

[制度的負担]

- ・教材の違い
- ・システムや風土の違い
- ・元の学校との連携不足
⇒結局子どもの負担にもなる



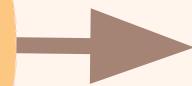
5

デュアルスクール③

問題点・提案

1月の試験運用について

- ・学校間の連携が少ない
- ・1週間という短い期間
- ・転入した家族への特別待遇



- ・情報交換を活発に行うプラットフォームづくり(チャットアプリ等)
- ・移住のイメージのためにも、長期間 or 複数回地方に来れる仕組みを
- ・移住をイメージできるよう、いつも通りと歓迎の態度のバランスを

デュアルスクール高畠モデル

- 特別待遇をしそぎず、本当の地方移住をイメージしやすくする(移住)
- 複数回来れる仕組みを整える(二拠点生活)
- 元の学校との連携強化(Zoomや希望シート)
- デュアルスクール外での地域の人々との交流
- 学校同士の長期的な交流(オンライン交流)

異文化国内留学

☆高畠と都市部の市区町村で行う子ども交流事業

- ・**山形STのOB・OGが指導員**

- ⇒異文化理解の観点から子供向けプログラムの実施

- ⇒都市部の子どもたちと同じ目線で対応できる(町役場への意見提示)

- ・目的は「**地域を知つてもらうため**」「**子どもの豊かな教育**」

- ・**ホームステイ**

- ・「**通学合宿**」を少ない人数・多学年で実施

- ・**交換実施ができる**



文化の違い発見！ワークショップ

それぞれの生活や文化について話し合い

外大生企画

・雪の日は何が大変？

→交通への影響の大きさ、雪の質感の違い等

・友達をお家に呼んだ時には何を食べる？

→食文化の違い、地域ならではの料理を知る

・放課後、お休みの日はどんな遊びをする？

→違いだけでなく、共通点も見つけられる

・日記をつけ、生活を比較してもらう

・27言語の挨拶を教える



カバーできるデメリット

- 親の仕事に左右されず、子どもの意思で参加できる
- 帰校したときの孤立を防げる
- ホームステイ＝宿泊施設の必要×・地域の人との交流が可能
- 指導員がいる＝学習進度や生活習慣の差をサポートできる
- 学校同士の連携が必然に発生

※文科省主導の「子どもの農山漁村交流プロジェクト」や、「子供の農山漁村体験支援サイト」なるものも参考に？

参考文献

- デュアルスクールHP: <https://dualschool.jp/about>
- 国土交通白書2021 <https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/r02/hakusho/r03/html/n1233000.html>
- 文科省就学事務Q & A https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shugaku/detail/1388552.htm
- 国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/jissen/chosa/18chiiki/chiiki-5.pdf>
- 文科省子ども農山漁村交流プロジェクト <https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/kodomo/>
-

Photos:

- <https://images.app.goo.gl/sWce4MFRsmn3Woph9>
- <https://images.app.goo.gl/otPCgFWNbQ5MnhA76>
-
-
-

Icons:

- Icon Pack: College | Filled



ご清聴ありがとうございました